



リーダーシップと決断力

レンゴ―社長 大坪 清

欧州合同原子核研究機関（CERN）が、今年7月に新粒子を発見した。質量の起源となるヒッグス粒子であるとされる。あらゆるクォーク（素粒子）に、ヒッグス粒子が「アメのごとく」粘着することによって質量が生まれたという。ニュートン力学では、この質量に加速度を乗ずることによって「力」が生まれるとされている。世界の変化はいよいよスピード感を増している。然るに、今の日本社会にとって最も必要なものが、この「力」ではないだろうか。特に最近の政治の世界における、リーダーシップと決断力により議決をする政治への転換であろう。

決められる政治をめざし、民主、自民、公明3党による社会保障・税の一体改革法案は何とか成立したが、消費税率以外、肝心の中身は今後の協議に委ねられている。特に痛みを伴う歳出削減への取り組みには、今こそ政治のリーダーシップと決断力が欠かせない。

ヒントになるのが、元GEを

率いたジャック・ウェルチが掲げた行動理念、3つのSである。それは「Speed, Simplicity, Self-confidence」の3つであり、かみ砕いていえば、スピード感を持ち、物事の本質をシンプルにとらえ、揺るぎない自信と覚悟で自ら信ずるところを凜として実行するということになるか。

さきの東日本大震災では、自衛隊の大活躍が印象的だ。そんな自衛隊の活躍を予見するかのごとくかつて戦後日本を率い、経済大国への礎を築いた故吉田茂元首相の言葉が残っている。引用すると、「君達は自衛隊在職中決して国民から感謝されたり、歓迎されることなく自衛隊を終わるかもしれない。きつと非難とか叱咤ばかりの一生かもしれない。ご苦労だと思う。

しかし、自衛隊が国民から歓迎されちやほやされる事態とは、外国から攻撃されて国家存亡の時とか災害派遣の時とか、国民が困窮し国家が混乱に直面

している時だけなのだ。言葉を換えれば、君達が日陰者である時のほうが国民や日本は幸せなのだ。堪えて貰いたい。一生御苦労なことだと思うが、国家のために忍び堪え頑張って貰いたい。」

自衛隊は、日頃の修練で養ったその秘めた実力を存分に発揮して黙々と任務を遂行し、被災者の救助救援活動を通じて国民の賞賛を浴びた。その動きは見事に「Speed, Simplicity, Self-confidence」を体現していたのではないか。

さて、国難ともいえる今、果たして政治は本当の意味でのリーダーシップを発揮しているだろうか。戦後日本の政治と外交をリードし、現実を骨身に染みるほど知りつくした政治家の言葉は極めて重い。長期的視座と矜持を持ち、これくらいのことを言える凜としたリーダーシップと、スピード感のある決断力で、今こそ大きな「力」を発揮してもらいたいものである。

本連載は、大坪清、海江田万里、北川正恭、茂木友三郎、清田瞭、平沼赳夫の各氏が担当します